

學界動向に對し、時期尙早を說かれる如きがそれである。

次にこの様な嚴密な歴史的考證の裏付けを持つと共に、終始敘述を親鸞の歴史的、信仰的遍歴に即しつつ、特に惠信尼の信仰生活、その主體性への把握が行はれている點を注意したい。終章の「老の涙と信のきらめき」は特に惠信尼の晩年に於ける北越の苦しい生活環境の中に親鸞の信を自らの信に轉じてゆく主體の信仰生活の有様をよく浮彫りしている。殊に、傳繪の六角堂の觀音夢告について、その玉日傳説の不當を説明すると共に、それこそは親鸞が妻尼公を觀音の化身と信ぜられていた告白であるとし、惠信尼文書第三通に示す尼公の夫親鸞を觀音の化身と信じていた事實と對比されている如きは、惠信尼の信仰的同伴者としてのあり方を最もよく示した、宗教的立場への理解なくしてはなし得ない敘述である。

尙、親鸞が越後配流後、流人としての生活からおのづから共同體的存在の中に身を置くこととなり、それが又關東移流への社會的基礎となつたことを指摘さ

れているのは、多くの問題を提示されているものと思はれ、日本中世史に於ける共同體研究の展開と共に、親鸞研究を發展させてゆく大きなポイントであると言えよう。

又、卷末に全惠信尼文書を收め、句讀點を打ち、假名文に漢字を註し、註釋を施して讀者の便を計つてある。史學徒、眞宗學徒のみならず、敢て一般學徒の一讀を薦めるものであるが、唯、非賣品で一般に入手し難いのが惜しい。(昭和三十一年八月、惠信尼公遺德顯彰會事務局發行、非賣品)

彙報

佛教學會

◇六月二十七日 例會 會議室にて

「涅槃に至る」 大學院 徳岡 亮英
出席者 山田・横超・舟橋・安藤諸教授以下約二十名。

哲學倫理學會

◇九月二十九日 (例會) 於四十四教室

シンボジウム

「現代に於ける哲學のあり方」

塚本 正孝

出席者 世良・立花教授外十名。

宗教學會

◇輪讀會「無門關」 毎週木曜

教育學會

◇十月二十二日 (例會) 會議室

卒業論文中間發表會

○農村環境と兒童問題 松本 正信

○兒童宗教教育の一考察 千代 唯澄

國史學會

◇本年度研究旅行 七月一日―五日

北九州方面、五來教授、堅田助手以下學生十八名參加。

福岡市内 聖福寺、東光院、崇福寺、
筥崎宮から太宰府に至り、天満宮、觀
世音寺見學の後、久留米一泊、翌日長

崎市内、大浦天主堂、諏訪神社、崇福寺等見學、同市一泊、三日目雲仙登山及び島原見學、熊本一泊、四日目、熊本城、水前寺公園見學、阿蘇山下坊中、西巖殿寺に至り、のち別府に至り解散。一部有志は深田石佛及び富貴寺を見學した。

佛教史學會

◆四月二十九日新入生歡迎史蹟踏査
山城大原方面、阿彌陀寺、三千院、寂光院、勝林院、指導藤島、野上兩教授參加學生三十八名。

◆五月十三日奈良方面史蹟踏査

來迎美術展見學、新藥師寺

指導藤島教授、參加學生二十名

◆五月三十日三回生の輪讀會始まる、テキスト「今昔物語」

◆七月二日山陽方面研究旅行

加古川(教信寺、鶴林寺)、書寫山丹敷寺、姫路城、福山(明王院)、鞆津(安國寺、福禪寺)、尾道(西國寺、淨土寺)、宮島(嚴島神社、大願寺)、四日宮島解散、指導藤島教授、參加學生

十六名

◆九月十六日天橋立方面史蹟踏査

智恩寺、龍神社、成相寺

指導藤島教授、參加學生二十八名

東洋史學會 支那學會

◆九月二十六日午後三時から研究室に於いて連絡協議會を開き、左の事項に就き協議

(1)新舊委員の交替、新委員川池田敏治

龍 良昭、井澤 宏

(2)二學期例會に關する件

◆支那學會例會 九月二十六日午後三時於應接室

出席者 中田・水谷兩教授及び學生六

名、論題、〃九歌製作の由來につい

て〃 平野 顯照

發表後盛んな質疑應答が行われ、盛會裡に終る。

眞宗史研究會

我國近時の眞宗史研究の進展に即した事業を行うべく、五月二十四日、六月十

二日の兩度に互り本學國史學及び佛教史學の關係者を中心に準備會が開かれたが、今度賛同者を求めて本會を結成し、眞宗史關係の史料蒐集、整理、保存、會員の研究發表、史料紹介、圖書出版等を實施することになった。

◆九月二十六日 第一回研究發表會(於會議室)

「山陰の眞宗教團について」

出席者 三品、柏原、土場、細川、堅田、北西、高橋、磯。

受贈交換誌名

(昭和三十一年一月—七月)

愛知縣立女子短期大學紀要 第六輯

アカデミヤ(南山大學) 第十二輯、第十

三輯

アメリカナ 第二卷三號、四號、五號

六號、七號

茨城大學文理學部研究紀要 第六號

印度學佛教學研究 第四卷一號

大分大學學藝學部研究紀要(人文科學)

第五號

大隈研究 第七輯